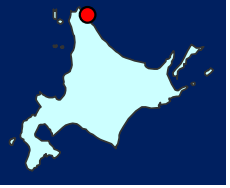
第4種 東浦漁港
（北海道稚内市）

東浦地域マリンビジョン策定

東浦地区特定漁港漁場整備事業計画

（ひがしうら）

宗谷北部圏域
流通拠点



現状と課題

・ホタテガイの陸揚げ作業は野天での作業となっており、衛生管理対策に課題がある。
・EU向けのホタテガイ輸出にかかる陸揚げ開始により、宗谷港船籍の漁船利用が本格化し、衛生管理対応の係留施設が不足。
・大規模災害発生時における水産業の早期再開を可能とする、岸壁や輸送経路等の確保が課題。

港　勢　（R5港勢調査）

登録漁船：41隻
利用漁船：56隻
（内、外来漁船：15隻）
属地陸揚量：13，080トン
属地陸揚金額：29．7億円
主な魚種：ホタテガイ、サケ類
組合員数：28人

◎東浦漁港の役割

・オホーツク海北部海域のホタテガイ底びき網漁業等の流通拠点
・宗谷海峡で操業、航行する漁船の避難拠点

主　要　対　策

主な整備方針

・ホタテガイ陸揚げ時における異物混入、直射日光や雨水による鮮度低下防止を図るため、屋根付き岸壁の整備を行う。
・利用漁船の増加により不足する衛生管理対応の係留施設を確保するため、既設防波堤を活用し、衛生管理対応の陸揚げ岸壁への改良整備を行う。
・大規模災害発生時における漁業活動の早期再開を図るため、岸壁の耐震性能の強化、道路及び背後用地の液状化対策を行う。
・荒天時の安全係留を図るため、防波堤の整備を行う。

基本事項

全体事業費：62．5億円
事業期間：H27～R11

主要な対策①：水産物の衛生管理対策

野天でのホタテガイ陸揚げ状況
（雨水の影響、鳥糞等異物混入の懸念）

EU輸出に対応したホタテガイ陸揚げ（イメージ）

主要な対策②：防災対策

耐震性能の強化された岸壁がなく、
国道への接続ルートも1本のみ。

災害発生後も岸壁や道路の利用が可能となり、漁業活動の継続・早期再開が可能。